

皆さん、あけましておめでとうございます。

今日から3学期です。皆さんは、今年は、いつもの年とは違うお正月を過ごした人も多いかもしれませんが、新しい年の初めには、「今年はこんなことを頑張ろう」とか「こんな人になりたい」など、目当てや目標を思い描いた人も多いことだと思います。この3学期、是非その目標にむけて、それぞれが力を伸ばしてほしいと思います。

さて、3学期の初めにあって、2つのことをお話します。1つは、「道は1つだけではない」ということ、もう一つは、「科学的に考える」ということです。

まず1つ目のお話です。

みなさんは、1人ひとりが、目当てや目標とすることを持っていると思います。そして、その目当てや目標に向けて、毎日努力している人も多いと思います。このように、山登りに例えるとわかりやすいかもしれません。しかし、思い描いている道筋には、思いもよらないことがあったり、自分の力だけではどうしようもないことに突き当たったりすることもよくあります。その時に、「やっぱりだめだ」とか「自分には無理」と、あきらめる気持ちになることがあるかもしれません。でも、落ち着いて考えてみれば、違う道を探すこともできるし、場合によっては、目指していたところとは違うところを目指すこともいいのではないかという時もあります。そして、違うところから見てみると今まで目指していたところがそれほどでもないと思えてくることもあります。

一つのことに気持ちを奪われてしまうと、たくさん道があることや、他にも素晴らしいものがあることを見失いがちです。ですから、みなさんに心にとめておいてほしいことは、「道は1つだけではない」ということです。時には、回り道をしたほうが、今まで気づかなかった感動に出会えるということもよくあります。私たちの社会は、「失敗が許される自由がある」ということを知っておいてほしいと思います。

2つ目は、「科学的に考える」ということです。

例えば、これを見てください。大小2つの風船をこのように管でつないでいます。今ここをピンセットで止めていますので、二つの風船の間に空気の行き来はありません。では、このピンセットを外すと、どうなると思いますか？

- ① 両方の風船が同じ大きさになる
- ② 大きいほうがさらに大きく、小さいほうがさらに小さくなる
- ③ 小さいほうが、大きくなって、大きかった方が小さくなる

では、やってみましょう。

さてどうでしたか。皆さんは、なんとなく予想を立てたと思いますが、大事なのは、この現象を見てどう考えるかです。今まで知っていることや、多くの情報をもとに、その考えを組み立てていく。これが「科学的に考える」ということです。

そして、大事なことは、「なんとなくではなく、確かな事実をもとに考える」ということです。「確かな事実」というのは、難しい言葉で、「客観性」「信頼性」「再現性」といいます。つまり、だれが見ても同じようにとらえられる、信用できる、また、繰り返しても同じ結果になる、ということです。

このような、見方や考え方は、このような実験だけでなく、普段の生活でも大事です。とくに、今回のコロナウィルス感染者への差別などは、この3つのない、いわゆる「科学的に考えない結果」だと思います。

さあ、今日は2つの話をしました。

- ① 道は1つだけではない ということ
- ② 科学的に考える ということ

それぞれが、この3学期を過ごす上で、是非心にとめておいてほしいと思います。

では、3学期も、マスク、手洗い、距離をとること、また換気などの感染対策は続きますが、それぞれができることをやりきる中で、充実した3学期になるよう、頑張りましょう。

これで、始業式の話が終わります。